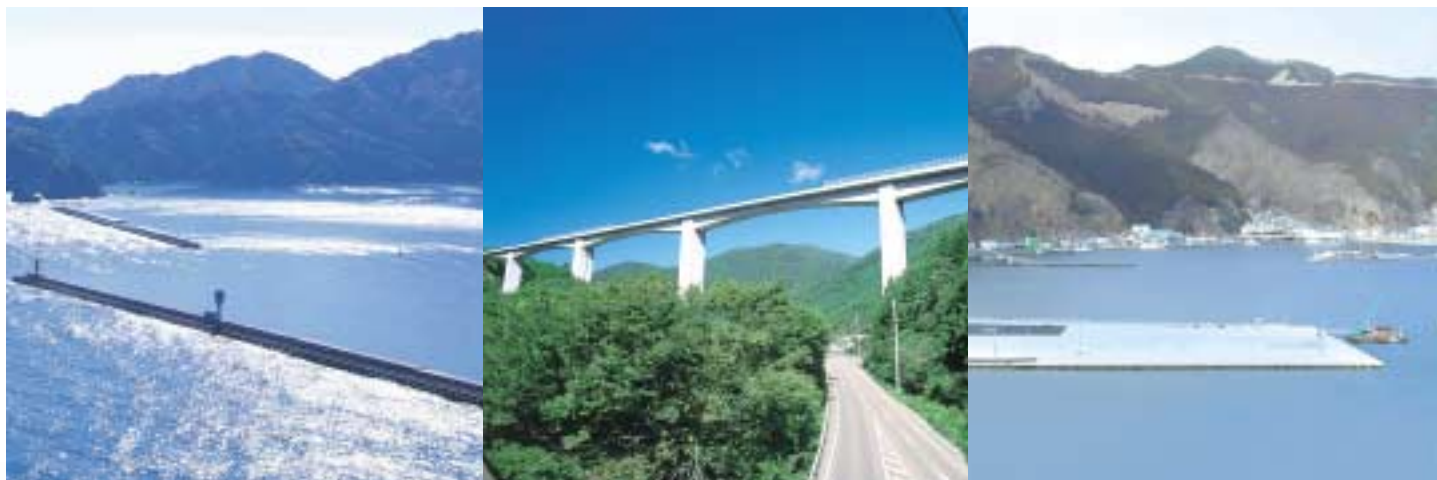


海と緑の交流拠点かまいし



3大基盤 整備の歩み

交流拡大、広域連携推進、産業振興

いきいき釜石
元気な釜石



釜石市イメージキャラクター
『かまリン』

3大基盤整備完成・釜石市制施行70周年記念事業実行委員会

平成19年3月18日開通



市民悲願の 仙人峠道路



三陸沿岸地域と内陸部とを結ぶ「仙人峠道路」の整備により、地域産業経済の振興、地域間交流や地域連携の推進、高次救急医療ネットワークの構築が図られるなど、開通による効果は市民生活の向上に大きく寄与するものと期待されます。

□ 整備概要 □

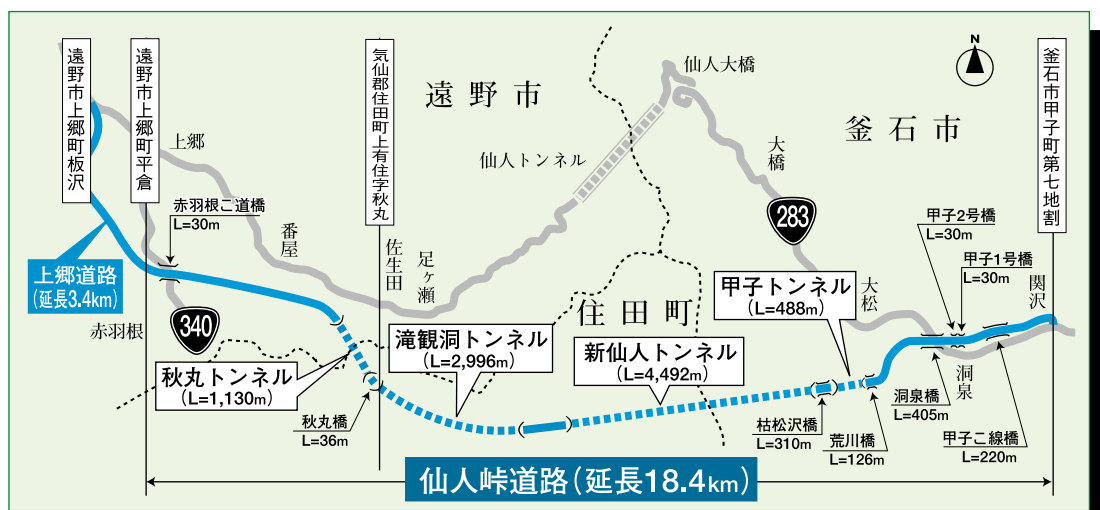
【事業】

仙人峠道路のうち、甲子町関沢から住田町上有住秋丸までの13.2kmは国土交通省が、また住田町上有住秋丸から遠野市上郷町平倉までの5.2kmは岩手県の施行で事業が進められました。

【効果】

- 安全性の確保…十分な幅員が確保され、勾配も穏やかになって急カーブ個所も減り、安全で円滑な道路交通が可能。
- 所要時間の短縮…延長は旧国道より5.7km、所要時間は約20分短縮。

【区間】 釜石市甲子町第7地割から住田町上有住を通り、遠野市上郷町平倉までの18.4km



新仙人トンネルなど4つのトンネルと枯松沢橋をはじめとする8つの橋が道路全体の半分以上を占める片側1車線の自動車専用道路



みんなで開通をお祝いしました

開通日当日鈴子広場では、「海と緑の交流拠点」形成への新たなスタートを祝い、来場者に祝いもちが配られ、「本郷桜舞太鼓」が威勢よく披露されました。供用開始時刻の14時には花火の打ち上げ、バルーンリリースを行い、トラック協会加盟各社のトレーラーなど26台が出発。沿道に詰め掛けた市民を含め3000人ほどが見送りました。



開通までの歩み

昭和61年7月14日・・・県内13の市町村（現在11市町）で組織される
国道283号仙人道路改良整備促進期成同盟会
設立

昭和62年10月13日・・・『仙人・1000人総決起大会』を開催
（平成4年度まで6回開催）

昭和63年4月・・・建設省（当時）が仙人峠道路の調査を開始
5月31日・・・仙人道路整備促進釜石市民会議設立

昭和63年8月10日・・・道の日の行事として『仙人峠の集い』を開始

平成3年8月8日・・・『仙人・1000人総決起盛岡大会』を開催

平成4年4月・・・建設省（当時）と岩手県は一般国道283号仙人峠道路改築事業に着手

平成4年6月5日・・・仙人峠道路事業着手記念大会

平成5年2月17日・・・仙人峠道路ルート発表

平成7年7月・・・新仙人トンネル工事用道路に着手

平成8年7月17日・・・仙人道路新仙人・1000人市民集会

平成9年9月・・・新仙人トンネル工事着手

11月19日・・・仙人峠道路整備促進市民大会

平成10年10月22日・・・仙人峠道路起工記念式典

平成14年10月29日・・・新仙人トンネル貫通式

11月10日・・・新仙人トンネルを歩こう会

平成16年5月20日・・・洞泉橋連結式

9月11日・・・仙人峠道路ウォーキング市民見学会

平成17年10月13日・・・滝観洞トンネル貫通式

平成18年3月13日・・・枯松沢橋アーチリブ閉合式

5月13日・・・仙人ダンスパーティー in 釜石

8月25日・・・枯松沢橋上部工締結式

11月26日・・・仙人峠道路市民ウォーキング見学会

平成19年3月18日・・・仙人峠道路・上郷道路開通



仙人・1000人総決起大会



新仙人トンネル貫通式



仙人峠道路市民ウォーキング見学会

釜石港湾口防波堤

百年の守り、
今ここに

当市は、過去に多くの地震津波に襲われ、尊い生命や財産を奪われてきました。津波災害から市民の生命や財産を守り、また安全な港湾による物流拠点の構築のため、昭和53年から建設が進められてきた釜石港湾口防波堤は、平成18年7月に最終ケーソンが据え付けられ概成しました。



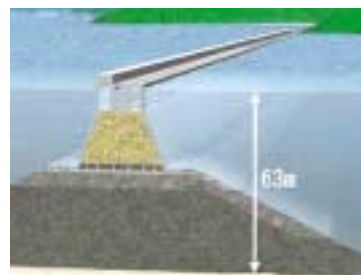
市は、湾口防波堤の効果を最大限に活用し、災害に強いまちづくり、そして釜石港の利用拡大による地域経済の発展のために、基盤整備により高まる物流機能を活用した新たな産業の創出に向けて取り組んでいきます。

湾口防波堤の特徴

釜石港湾口防波堤は、中央の開口部の300mを大型船舶の航路として確保し、その両側に北堤（990m）と南堤（670m）の2本の防波堤をハの字型に配置したものです。全長1,960m、水深63mという世界最大水深に建設された、世界最大級の湾口防波堤です。



湾口防波堤の位置



湾口防波堤断面図

湾口防波堤の工事概要

釜石港湾口防波堤は、大型ケーソンを採用した「ケーソン式混成堤」といいます。

ケーソン式混成堤とは、海底マウンド（岩石を沈めてつくった台形状の山）の上にケーソンを座らせて、波を防ぐ構造のことをいいます。

ケーソンは、巨大な鉄筋コンクリートの箱です。津波など大きな力でも倒れないように、一番大きいもので重量は16,000トン、高さは30mほどで、一つ造るのに約16カ月かかります。釜石港湾口防波堤には大小合わせて77函のケーソン

が据え付けられました。

ケーソンと海底マウンドの間の基礎の部分に使用した石の量は、740万立方メートルで、11トンダンプで約100万台分、東京ドーム約7つ分にもあたります。

昭和53年から工事が始まった釜石港湾口防波堤は、着工から28年の歳月をかけ、総事業費1,300億円を投じて概成しました。ケーソンの落ち着きを待ち、上部工工事をを行い平成20年度の完成予定です。



泉作業基地にあるフローティング
ドッグでのケーソン製作



ケーソンの海上移動



ケーソンの据え付け作業



湾口防波堤は、津波だけではなく、台風などによる高潮なども抑え、湾内の海面を穏やかに保ちます。そのため釜石港の輸送能力が向上するほか、観光や海洋型レジャー基地として、さらには養殖など水産業の振興などにも大きく貢献することが期待されます。

湾口防波堤概成までの歩み



① 湾口防波堤起工式での万歳三唱



③ 南堤 1 号函着座式



⑥ 北堤概成記念の遠泳大会



① 起工を祝ってのちょうちん行列



④ 記念式典でのテープカット



⑦ 星野知子さんの記念講演



② ケーソンの製作を行う泉作業基地



⑤ 最終函据え付けセレモニー



⑦ 記念式典でのテープカット

昭和43年 釜石市議会は県に対し、釜石湾全体の防
災対策の実施を要望
昭和47年 水際防潮堤に着手
昭和48年 県は釜石湾津波対策委員会を設置
昭和50年 釜石湾津波対策委員会より答申
同 年 湾口防波堤の調査開始
昭和52年 港湾審議会第80回計画部会において整備
計画を決定
昭和53年 国の直轄事業として着手
同 年 釜石港湾口防波堤起工式……………①
昭和56年 平田石材積出場完成、防波堤深部投石開
始
昭和57年 北堤浅部ケーソン 1 号函据え付け開始

同 年 釜石港湾口防波堤着工式典
昭和59年 泉地区作業基地着工
平成元年 泉地区作業基地完成……………②
平成2年 北堤深部ケーソン 1 号函据え付け開始
平成5年 開口部ケーソン 1 号函据え付け開始
平成9年 南堤ケーソン 1 号函据え付け開始……………③
平成12年 ケーソン50函据え付け
平成16年 南堤ケーソン最終函据え付け
平成17年 南堤概成記念式典……………④
平成18年 北堤最終函据え付け……………⑤
同 年 南堤完成
同 年 概成記念イベント開催……………⑥
同 年 北堤概成記念式典……………⑦

岩手と世界を結ぶ物流拠点

釜石港公共ふ頭

釜石港の沿革

釜石港は、岩手県の南東部に位置する天然の良港で、江戸時代には漁業基地として、また、東廻り海運の重要港として繁栄し、明治7年に国営製鉄所が建設されたことにより発展した港です。

釜石港における港湾貨物量は、製鉄所の拡大とともに急増し、大正11年には内務省の指定港となり、昭和9年には岩手県で初の開港となりました。

公共施設は、昭和7年に須賀地区物揚場及び防波堤の建設に着手し、昭和13年に完成しました。昭和37年からは－7.5mの岸壁1バースを主体とする公共施設の建設に着手し、昭和46年に完成しました。

近年は、トヨタ車の陸揚げ・積み出し、配合飼料、IPP石炭火力発電事業に伴う石炭の輸入などが段階的に開始され、平成15年には、国土交通省より、全国でも数少ない総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定されました。



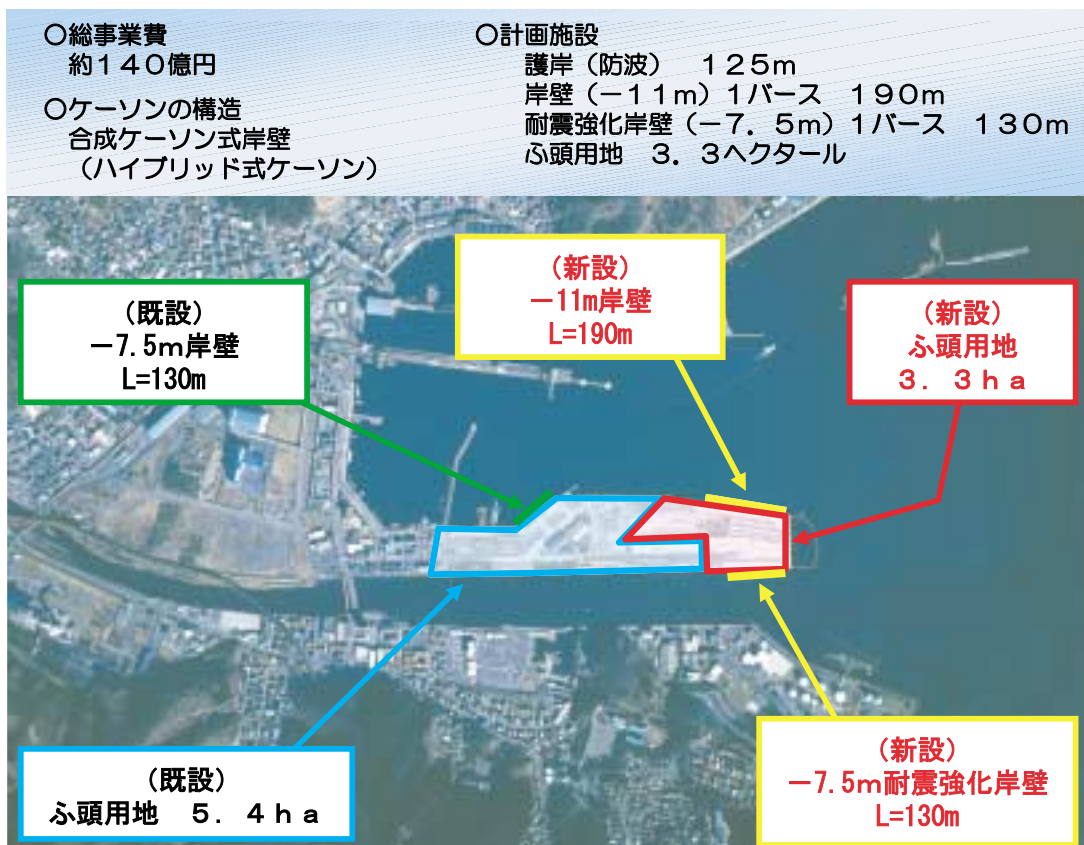
平成4年度から進められてきた、釜石港公共ふ頭の拡張工事は、－11m岸壁と－7.5m耐震強化岸壁、ふ頭用地3.3ヘクタールの整備が完成し、平成19年4月1日に供用開始となりました。

岩手県で唯一の耐震強化岸壁

耐震強化岸壁は、大規模地震が発生した場合において、災害直後における緊急物資の海上輸送を円滑に行うことができます。

また、緊急物資の輸送終了後においても、被災した港湾施設が復旧するまでの間、最小限の港湾機能の保持のために活用することができます。

釜石港公共ふ頭拡張工事の概要



釜石港公共ふ頭拡張工事の概要



①基礎地盤の地盤改良



②基礎捨石の投入



③ハイブリッドケーソンの鋼殻陸揚



④平田ヤードでのケーソン製作



⑤ケーソン据付



⑥ふ頭用地の埋立



⑦完成

釜石港公共ふ頭拡張工事の岸壁及び護岸に使用するケーソンは、鋼製の殻の外側に鉄筋コンクリートを打設し一体化する工法で製作したものです。

ケーソン1函当りの重量は岸壁用で約1,400 t、護岸用で1,610 tです。このケーソンは平田の陸上ヤードで製作し、大型起重機船（2,200 t 吊り）でケーソンを吊上げ、公共ふ頭まで曳船で曳航しました。

次に水中ポンプでケーソン内に海水を注水し、沈降させ所定の位置に据付けられました。

ケーソンで囲んだ部分の海を土砂で埋め立て、上部面をコンクリート舗装し、ふ頭用地として完成しました。



釜石港公共ふ頭の歩み

昭和 7年	須賀物揚場及び防波堤の建設に着手
昭和 9年	岩手県初の開港
昭和13年	須賀物揚場及び防波堤が完成
昭和26年 9月	重要港湾に指定される
昭和26年10月	第三種漁港に指定される
昭和28年 7月	岩手県が港湾管理者となる
昭和37年	－ 7. 5m公共岸壁の建設に着手
昭和46年	－ 7. 5m公共岸壁が完成
昭和52年12月	港湾計画の改訂
昭和55年 3月	港湾計画の一部変更
平成 4年	－11. 0m公共岸壁、－7. 5m耐震強化岸壁の建設に着手
平成10年11月	港湾計画の改訂
平成14年 2月	ケーソン第1号函着座式
平成15年 4月	総合静脈物流拠点港（リサイクルポート）に指定
平成17年11月	港湾計画の一部変更
平成19年 3月	－11. 0m公共岸壁、－7. 5m耐震強化岸壁が完成



ケーソン第1号函着座式



完成自動車の積み出し
（-7.5m公共岸壁）



海上自衛隊艦艇広報
（-11.0m公共岸壁）



H19 釜石が大きく変わります!

平坦軽やか ぐつと近づきます
仙人峠道路
 -63m 世界最大水深です
湾口防波堤
 耐震強化岸壁、県内初です
公共ふ頭
市制施行70周年・近代製鉄150周年

発行／3大基盤整備完成・釜石市制施行70周年記念事業実行委員会
 平成19年5月25日発行

※このパンフレットは、社団法人東北建設協会「みちのく国づくり支援事業」
 の協賛により作製しました。